

事業実績報告書

事業名	スポーツ栄養学に関するセミナー	団体名	スポーツ栄養学研究会 SNA
研修・講習会名	第25回スポーツ栄養学セミナー		
開催日時	令和1年11月23日(土) 14:00~17:20	開催場所	国立オリンピック記念青少年総合センター
事業の内容	<p>セミナーテーマ『目指せ東京！—熱中症予防情報—』</p> <p>14:00 開会の辞</p> <p>14:10~ 基調講演「東京オリンピック・パラリンピックが開催される時期の気象の特徴と熱中症予防情報の利用方法について」</p> <p>講師：一般財団法人 気象業務支援センター 振興部長 登内 道彦 氏</p> <p>15:20~パネルディスカッション「スポーツ現場における熱中症予防対策」</p> <p>「熱中症対策と言わない熱中症対策」</p> <p>NPO 法人 ARUKAS KUMAGAYA コーチ 武田 達也 氏</p> <p>「東海大学アメリカンフットボール部 熱中症対策への取り組み」</p> <p>有限会社トレーナー・アローズ アスレティックトレーナー 瑞慶覧 大勇 氏</p> <p>「スポーツ現場における熱中症対策 ～野球の場合～」</p> <p>株式会社日米クック関西支社 管理栄養士 川原 啓史 氏</p> <p>17:05~総合討論 (座長：公認スポーツ栄養士 今井 愛 氏)</p> <p>17:20~閉会の辞 (18:00~20:00 懇親会)</p>		
事業全体の成果	<p>◆基調講演：日本の夏がこの10年間で早い時期から暑く、湿度が高くなり、「猛暑日(最高気温35℃以上)」や夜間のWBGT25℃以上の「警戒」域に入る日が増えた。暑熱馴化には数日~1週間程度が必要である。気象予測の精度は年々上がっているため、予報を活用してほしい。高温が予測される日・時間帯は長時間の運動を避ける、早朝・夜間に練習時間を設ける、空調設備の活用、救急対応のシミュレーションなどを考慮してほしい。海外事例も交えた講演であった。</p> <p>◆パネルディスカッションおよび総合討論：武田氏は、選手本人の「熱中症をおこさない」という自覚づくりが重要と発言した。瑞慶覧氏は、6~10月にチームで行っている予防対策や応急処置法を多くの写真で紹介した。川原氏は、野球の競技力向上に必要な安全な練習を改めて見直すことを提案し、事例を紹介した。総合討論では、熱中症予防には、常識や経験値のみにとらわれず、環境温や体重・体温の値などから状況を客観的にとらえることが大事であること。気象予報や空調設備の活用も含め、練習内容や体調管理もスポーツ科学に基づいた見直しが必要であると提案された。</p> <p>◆事後アンケートより：スポーツ現場に即した発言や視点が参考になった、との感想が多かった。</p>		